

未来に伝えたい「まいばらの水」12選

vol.10

深い山々が育んだ米原の美しい湧き水。

このコーナーでは、「未来に伝えたい」まいばらの水」に選ばれた12か所をシリーズでお伝えしていきます。水道の蛇口をひねれば当たり前のように水が出てくる現代の暮らしの中で、忘れられつつある水や水を育む森の大切さを改めて感じていただき、米原の美しい水環境を未来へ引き継いでいくきっかけとなることを願っています。

世継のカナボウ

カナボウとは、水の湧き出ている泉と洗い場を総称した名称で自噴井戸のことをいい、世継集落には多くのカナボウがあります。水源は遠く霊仙山に発するといわれ、深さは約100メートルあり、年中一定の水温（約16〜17℃）を保つことから夏は冷たく、冬は暖かく感じられます。道路に面した場所でも共同利用されてきたものから、個人の家にあるものや、田んぼの中にあつて灌漑用に利用されたりしているものなど、その形態はさまざまです。この名前は、井戸をつくりに利用する金属製



▲共同利用のカナボウ

の棒や湧いてくる水のカナケに由来しているともいわれています。

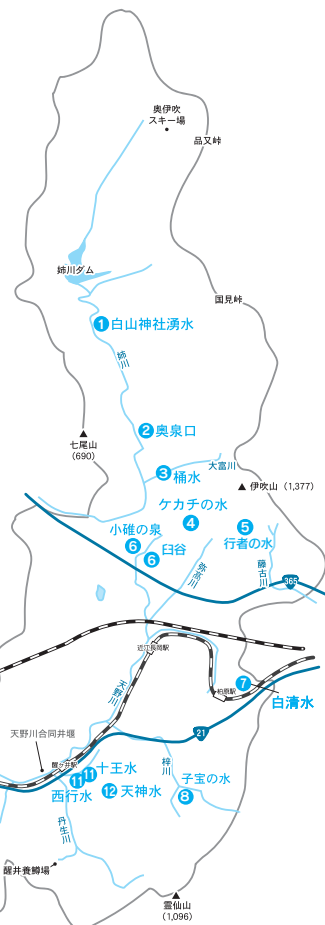
琵琶湖の水を利用するのは不便だったため、上水道ができるまでは、飲料水や生活用水などあらゆるものに利用され、人々の交流の場となっていました。現在は野菜洗いや夏場の果物や飲み物を冷やすための水として利用されているのみです。カナボウの構造は、高低差をつけた水槽を設け、上の水槽から下の水槽に水を流していく仕組みになっています。上の水槽は主に飲み水や食器洗いなどに利用し、土の付いているようなもの



▲田畑の灌漑用カナボウ

や不潔な物を入れてはいけないう暗黙のルールがありました。ほ場整備や道路整備などにより水量が減少したり、生活環境の変化や上水道の普及などによりその数は減少しましたが、公共のものだけでなくも集落内に5か所現存しています。

(硬度73・4 mg/l 中硬水)



まいばらの水イメージキャラクター スイナちゃん

世継のカナボウ

まいばらの水MAPが完成!
まいばらの水MAP「SOMなまいばらの水旅」ができました。このコーナーでお届けしている「未来に伝えたい」まいばらの水」をはじめ、名水百選やまいばらの滝、まいばらの水文化などについてご案内しています。

まいばらの水MAP

検索

お問い合わせ 経済環境部 環境保全課 (伊吹庁舎) ☎58-2230 FAX 58-1630